

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.20

新機能と変更点

ドキュメントリリース日: 2013年2月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2013年2月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997-2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Intel®、Intel® Itanium®、Intel® Xeon®、およびPentium® は、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHPソフトウェアサポートのWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/>

HP ソフトウェアサポートオンラインでは、対話型の技術支援ツールに効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、**HP Passport**ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

目次

第 1 章	PPM Centerバージョン9.20の新機能	7
	PPM Centerバージョン9.20の新機能	7
	操作性の改善	8
	ダッシュボードページの非同期読み込みの実装	8
	ユーザインタフェースの改善	8
	HP Demand Management	12
	[リクエストの詳細] ページ	12
	[リクエストの作成] サブメニューオプション	13
	HP Program Management	13
	HP Document Management	14
	ドキュメント管理システムの更新	14
	ドキュメント管理システムに対するその他の主な拡張	15
	HPソリューションの統合	16
	ALMバンドル9.20の拡張	16
	一元化された統合ランディングページ	17
	PPM CenterのQuality Center/HP ALMとの統合 (ALMを使用)	18
	プロジェクト品質の表示 (PPM CenterのHP ALMとの統合)	20
	アジャイル統合ソリューション (PPM CenterのHP Agile Managerとの統合)	21
	HP Resource Management	21
	オープンインタフェース	21
	LDAPインポートでの一意でない名前を持つ組織単位からのユーザのインポートのサポート	22
	アップグレードの注意点	22
	変更または新規作成された文書のタイトル	23
	関連情報	23
第 2 章	アップグレードの影響	25
	アップグレードでの注意点	25
	アップグレードパス	25
	Oracleデータベースの互換性	26
	Microsoft Windows	26

Oracle	27
HP-UX	27
IBM AIX	28
Red Hat Linux	28
SUSE Linux	29
拡張機能とマイグレータの互換性	30
HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite	30
HP Object Migrator およびMercury GL Migrator	32
HP Deployment Management Extension for Oracle Technology	34
HP Deployment Management Extension for SAP Solutions	34
カスタマイズソリューション	34
データモデルの変更	35
テーブル	35
ビュー	43
エンティティの変更	44
アクセス許可	44
ライセンス	45
ポートレット	46
レポートタイプ	46
リクエストヘッダタイプフィールドグループ	47
リクエストタイプ	47
特殊コマンド	48
検証	48
ワークフロー	49
第 3 章 システム要件および設定の更新	51
システム変更の概要	51
server.conf ファイルの変更	51
追加と変更	51

第 1 章 PPM Centerバージョン9.20の 新機能

PPM Centerバージョン9.20の新機能

このバージョンの HP Project and Portfolio Management Center (PPM Center) では、バージョン9.14に比べて、主に次の機能が拡張されています。

- 「操作性の改善」
- 「HP Demand Management」
- 「HP Program Management」
- 「HP Document Management」
- 「HPソリューションの統合」
- 「HP Resource Management」

詳細については、関連の製品ガイドも参照してください。

バージョン9.11、9.12、9.13、9.14で導入された新機能や変更の多くが、バージョン9.20に含まれています。ただし本書では、機能が導入されたマイナーバージョンは明記されていない場合があります。バージョン9.11から9.14までで導入された新機能や変更の詳細については、バージョン9.14の『Release Notes』を参照してください。

バージョン9.14に対するパッチ (9.14.0004まで) で導入された不具合修正も、バージョン9.20に統合されています。バージョン9.14.0004の『Release Notes』も参照してください。

操作性の改善

製品全般で操作性が改善されました。この変更の大部分は、ユーザに対して透過的な変更です。ただし、いくつかの重要な改善は、PPM Center 製品の操作性を大幅に改善します。

ここでは、主な改善点について説明します。

ダッシュボードページの非同期読み込みの実装

以前のバージョンでは、PPM Center はダッシュボードページのポートレットをすべてのデータの読み込みが完了した時点で表示していました。

バージョン 9.20 では、非同期読み込みが実装され、ダッシュボードページのポートレットの読み込みが効率化されました。個々のポートレットのデータの読み込みが完了すると、そのポートレットはただちに表示されます。これにより、ダッシュボードページのほかのポートレットのデータが読み込まれている間に、ユーザは先に表示されたポートレットのデータを確認できます。

ユーザインタフェースの改善

PPM Center のユーザインタフェースが大幅に改善され、新しい HP エクスペリエンススタイルの外観と操作が PPM Center 製品に導入されました。

さらに、標準ユーザインタフェースページが次のように拡張されました。

- 「リクエストページへの [ジャンプ先] クイックナビゲーションパネルの追加」
- 「PPM Center のページ上部の新しいリボンスタイルツールバー」
- 「未入力の必須フィールドに対するエラーヒント」
- 「[検索結果] ページへの [検索の変更] ボタンの追加」
- 「新しい [統計] セクション」

リクエストページへの [ジャンプ先] クイックナビゲーションパネルの追加

PPM Centerのリクエストページは、多くのコンポーネントを含むため非常に長くなることがあります。以前のバージョンでは、PPM Center ユーザは目的のセクションを見つけるために長いページを上下にスクロールする必要がありました。これはリクエストページが非常に長い場合にはさらに面倒になります。

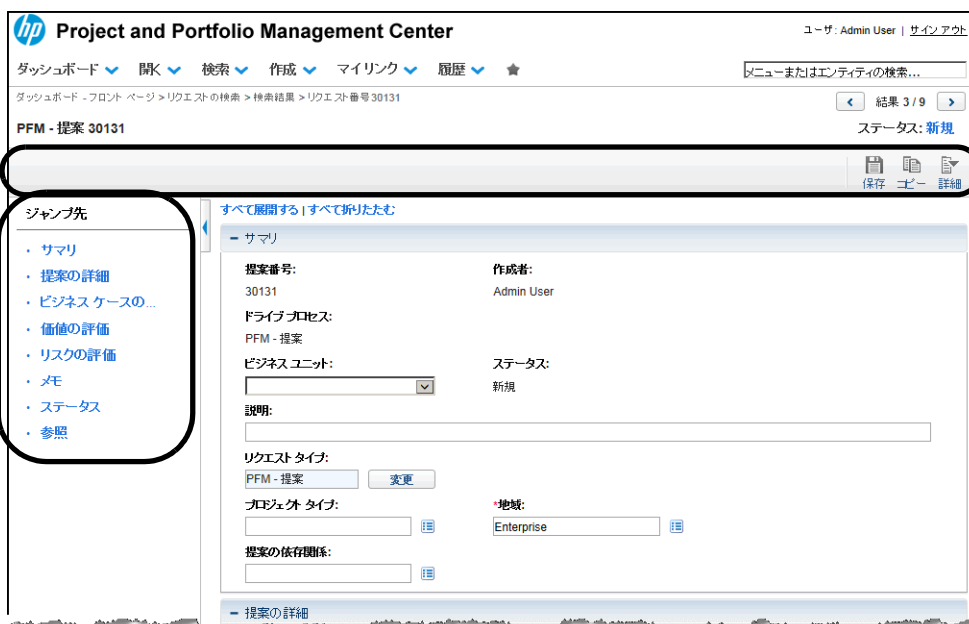
操作性を改善するため、PPM Centerバージョン9.20では、新しい [ジャンプ先] ナビゲーションパネルが次のページに追加されました。

- [新規リクエストの作成] ページ
- [リクエストの詳細] ページ

ページの特定のセクションにジャンプするには、[ジャンプ先] ナビゲーションパネルで対応するセクション名のリンクをクリックします。セクションに入力されていない必須フィールドがある場合は、セクション名が赤に変わります。

[ジャンプ先] ナビゲーションパネルは、デフォルトで展開されています (図 1-1 を参照)。折りたたむには、パネルの右上隅にある矢印ボタンをクリックします。

図 1-1. 新しい [ジャンプ先] ナビゲーションパネルとリボンツールバー



PPM Centerのページ上部の新しいリボンスタイルツールバー

以前のバージョンでは、アクションボタンはPPM Centerページのさまざまな場所に配置されていました。ユーザはページを操作する際にアクションボタンの場所を覚える必要がありました。

バージョン9.20では、リボンスタイルのツールバーが導入され、次のページのすべてのアクションボタンが1か所にまとめられました。

- [新規リクエストの作成] ページ
- [リクエストの詳細] ページ
- [タイムシートの編集] ページ
- [財務サマリ] ページ
- [財務データ] ページ
- [プログラムの概要] ページ
- [プロジェクトの概要] ページ
- [タスクの詳細] ページ

新しいリボンスタイルツールバーは、ページの上部にあります。これにより、ユーザは長いページで作業する際に、関連するアクションアイコンの位置を探して覚える必要がなくなります。

表示されるアクションボタンの数は、現在のユーザのアクセス権限によって異なります。使用可能なアクションボタンが3個より多い場合は、最初の2個だけが表示されます。その他のアクションボタンにアクセスするには、**[詳細]** ボタンをクリックしてその他のオプションを表示します。**[リクエストの詳細]** ページと**[プロジェクトの概要]** ページの**[プロジェクトの詳細]** タブにある**[リクエストのキャンセル]** ボタンは、常に**[詳細]** ドロップダウンリストの最後に表示されます。

以前のバージョンの**[利用できるアクション]** セクションも、新しいリボンスタイルツールバーに統合されました。リクエストまたはプロジェクトがワークフローの特定のステップにある場合、使用可能なワークフローステップアクションもリボンツールバーに表示されます。ツールバーの左端の青いボタンがそうです (図 1-1を参照)。

未入力の必須フィールドに対するエラーヒント

未入力の必須フィールドに対するエラーヒントが利用できます。これは、ユーザが必須フィールドに入力せずに **[保存]** または **[送信]** をクリックしたときに、ページの上部に表示されます。エラーヒントには、入力されていないすべての必須フィールドのラベル名が含まれます。エラーヒントのラベル名をクリックすると、対応するフィールド(赤で強調表示)に移動します。これにより、PPM Centerの操作がより簡単で効率的になります。

[検索結果] ページへの [検索の変更] ボタンの追加

以前のバージョンでは、PPM Centerは [検索結果] ページの下部に検索条件を表示していました。検索結果の数が多い場合、[検索結果] ページは非常に長くなる場合があります。検索条件を変更したい場合、PPM Center ユーザは長いページの下までスクロールする必要があります。

操作性を改善するため、PPM Centerバージョン9.20では、新しい **[検索の変更]** ボタンが次のページの右上隅に追加されました。

- [パッケージ検索結果] ページ
- [プログラムの問題検索結果] ページ
- [プログラムリスク検索結果] ページ
- [プログラム検索結果] ページ
- [プロジェクトの問題検索結果] ページ
- [プロジェクトリスク検索結果] ページ
- [プロジェクトのスコープ変更検索結果] ページ
- [プロジェクト検索結果] ページ
- [レポート検索結果] ページ
- [リクエスト検索結果] ページ
- [スタッフィングプロファイルの検索結果] ページ
- [タスク検索結果] ページ
- [タイムシートの検索結果] ページ

新しい [統計] セクション

新しい [統計] セクションが次のページで使用できます。

- [財務サマリ] ページ
- [財務データ] ページ
- [タスクの詳細] ページ

[統計] セクションでは、名前、ステータス、説明といった全般情報を見ることができます。

HP Demand Management

[リクエストの詳細] ページ

[リクエストの詳細] ページが次のように拡張されました。

- 似た名前のリクエストを区別しやすいように、[リクエスト詳細] ページのリクエストタイトルに、リクエストの説明のほかにリクエスト番号も次の形式で表示されるようになりました。

<リクエストタイプ> <リクエスト番号> - <リクエストの説明>

例: **DEM - Application Bug 30182 - 新しいOps モジュールの使用後の保存時にアプリケーションが失敗する**

- [リクエストの詳細] ページの次のボタン名が変更されました。
 - [コピーの作成] → [コピー]
 - [削除] → [リクエストの削除]
 - [印刷用バージョン] → [印刷]
- 上のセクションで、[リクエストステータス] フィールドがページの右上隅に移動されました。ステータスをクリックすると [ステータス] セクションに移動します。
- [ステータス] セクションで、[利用できるアクションの表示] リンクが削除されました。

[リクエストの作成] サブメニューオプション

以前のバージョンでは、リクエストを作成するにはそのたびに [新規リクエストの作成] ページに移動する必要がありました。

操作性を改善するため、バージョン9.20では [リクエストの作成] サブメニューオプションが導入されました。[作成]>[リクエスト]><リクエストタイプ> をクリックすることで、最近使用したリクエストタイプでリクエストを作成できます。[リクエストの作成] サブメニューには、最近使用した5つのリクエストタイプが表示されます。これは、[新規リクエストの作成] ページの [目的のアクションに基づいて作成] セクションに表示されるリクエストタイプに対応します。あるリクエストタイプのすべてのリクエスト (クローズしたリクエストを含む) が削除された場合、そのリクエストタイプは [リクエストの作成] サブメニューから削除されます。最近作成したすべてのリクエストタイプが削除された場合、[リクエストの作成] サブメニューは表示されなくなります。

HP Program Management

[プログラムの概要] ページが次のように拡張されました。

- [プログラムの概要] ページにリストされたプログラムに追加する列として、すべてのユーザが次の新しい列を使用できます。
 - 予測ベネフィット
 - 実績ベネフィット
 - 承認された予算
 - 承認された予算 (選択可能な列のリスト内の [資本コスト] に従属)
 - 承認された予算 (選択可能な列のリスト内の [運用コスト] に従属)
- [プログラムの概要] ページの右上隅にある [Excelにエクスポート] をクリックすると、[コンテンツ] セクションに表示されている列のみが、その表示順序でExcelにエクスポートされます。つまり、Excel ファイルには、表示するように選択した列と列のレイアウトに対する変更が反映されます。

HP Document Management

PPM Centerバージョン9.20には、DMS機能が標準で装備されており、サードパーティのコンテンツおよびインデックスサーバを別途インストールする必要はありません。

ドキュメント管理システムの更新

HP Document Management System (DMS) が更新され、現在のOracleデータベース (PPM Center専用のデータベースまたはネットワーク上の外部データベース) をフルに利用することで、標準装備のドキュメント管理機能を使用できるようになりました。

PPM Centerバージョン9.20では、次のDMSソリューションが提供されます。

- **PPM CenterデータベースDMS:** このソリューションは、追加のソフトウェア製品やハードウェア製品を必要とせず、PPM Centerデータベースにドキュメントを保存して、ドキュメントのチェックイン/チェックアウト機能とバージョン管理機能を標準で提供します。必要なOracleのTEXTインデックスを作成し、管理コンソールからPPMサーバーパラメータを更新することで、全文検索も実行できます。PPM Centerユーザにとっては、このソリューションは、DocumentumベースのDMSソリューションのすべての機能に加えて、ドキュメントの最新バージョンのみまたはすべてのバージョンの検索を可能にする新機能を提供します。追加のデプロイや設定は不要で、追加のライセンスコストも発生しません。
- **PPM Center外部データベースDMS:** PPM CenterデータベースDMSソリューションと同じ機能を提供しますが、ドキュメントが保存されるのはPPM Centerデータベーススキーマでなく外部データベーススキーマです。
- **PPM Centerファイルシステム:** ファイルシステムDMSソリューションは、添付ファイル相当の機能だけを提供し、通常のドキュメント管理システムが備えている機能は提供しません。これは、PPM Centerバージョン9.20を新規にインストールした場合のデフォルトのDMSソリューションです。

Documentumベースのドキュメント管理ソリューション (HPバージョンのEMC Documentum Content Server EEソフトウェアまたは、EMC Documentum Content Server EEソフトウェアのスタンドアロンインスタンスを使用) は、PPM Centerバージョン9.20のDMSオプションとしては使用できません。

Documentum ベースの DMS ソリューションをまだ使用している場合は、PPM Center をバージョン 9.20 にアップグレードする前に、サポートされる DMS ソリューションに移行してください。

サポートされる移行パス、移行手順、および新しい DMS ソリューションの詳細については、『Document Management Guide and Reference』を参照してください。

ドキュメント管理システムに対するその他の主な拡張

DMS に対するその他の主な拡張を次に示します。

- 管理コンソールからの DMS 移行の実行

PPM Center バージョン 9.13 から導入された DMS 移行機能を使えば、サポートされるターゲット DMS に容易に移行することができます。

- 移行は PPM サーバーがオンラインの状態で行われ、PPM ユーザに対する影響はほとんどありません。ユーザは、ファイルのチェックインやチェックアウト、新規添付ファイルの追加を引き続き行うことができます。
 - 移行が完了した後、前のソリューションがまだ使用できる「移行期間」の間に、新しいソリューションをテストできます。新しい DMS システムに何か問題が発生した場合、いつでも移行を取り消して元のソリューションに戻すことができます。その過程でドキュメントが失われることはありません。
 - 移行が行われる時間をスケジュールし、いくつかのパラメータを調整することで移行による PPM システムへの負荷を制御できます。ただし、標準的なサーバ負荷の下では、移行プロセスによる PPM サーバのパフォーマンスへの影響は比較的軽微です。
- kConfig の更新: kConfig ツールが拡張され、Documentum ベースのドキュメント管理ソリューションをサポートされるターゲットソリューションに移行する前に、破損したドキュメントを修復できるようになりました。
 - 管理コンソールからの DMS 設定の直接編集
 - 過去のバージョンの検索: 新しいデータベースの DMS が現在の DMS として使用されており、全文検索機能が有効になっている場合に、[<エンティティ>の検索] ページで使用できる新しいオプション。

HPソリューションの統合

PPM Centerは、Application Lifecycle Management (ALM) 統合バンドルによるほかのHP製品との統合に加えて、ALMエンティティに依存しない新しい統合機能をサポートします。

- 「ALMバンドル9.20の拡張」
- 「一元化された統合ランディングページ」
- HP Quality Center/HP Application Lifecycle Managementとの統合ソリューションの拡張。詳細については、「PPM CenterのQuality Center/HP ALMとの統合 (ALMを使用)」を参照してください。
- HP ALMとの統合によるプロジェクト品質情報およびプロジェクト品質の表示統合ソリューション用の品質マトリクスの取得。詳細については、「プロジェクト品質の表示 (PPM CenterのHP ALMとの統合)」を参照してください。
- HP Agile Managerとの統合による、HP Agile Managerで管理されるアジャイル開発プロジェクトのステータスと進捗の取得と表示。詳細については、「アジャイル統合ソリューション (PPM CenterのHP Agile Managerとの統合)」を参照してください。

ALMバンドル9.20の拡張

PPM Centerには、Application Lifecycle Management (ALM) 統合バンドルが付属します。これは、組織内で発生したアプリケーションの変更に伴うコストやリスクを低減し、アプリケーションの製品化までにかかる時間を短縮するソリューションです。ALMバンドルは、HP Service Manager、HP Universal CMDB、HP Quality Centerバージョン10およびHP Application Lifecycle Managementバージョン11.00以降、HP Change Control Management、HP Release Controlとの統合をサポートします。

PPM Center 9.20向けのALMバンドル9.20の機能とエンティティは、PPM Center 9.10向けALMバンドル9.10とほぼ同じです。ALMバンドル9.10がインストールされている場合、新しいバンドルをインストールする必要はありません。

ALMバンドル9.20の拡張を次に示します。

- 次の2つのリクエストステータスを追加しました。ユーザは必要に応じてALM - 変更リクエストワークフローの適切なワークフローステップにこれらを追加できます。

- 3-テストラボセットアップ完了

- 5-テスト実行完了

ALM - 変更リクエストワークフローテンプレートは、必ずこれら2つのリクエストステータスを適切なワークフローステップに追加することによってカスタマイズしてください。ALMバンドルで提供されているこのワークフローを直接使用することは推奨されません。このワークフローは、ワークフロー作成の手間を省くためのテンプレートとして提供されています。

- **Quality Center不具合情報** フィールドグループの名前を **QC/ALM不具合情報** に、**Quality Center情報** フィールドグループの名前を **QC/ALM情報** に変更しました

QCはHP Quality Center Enterprise Editionバージョン10.00を指します

ALMは標準のHP ALM (Application Lifecycle Management) エディションのバージョン11.x (バージョン11.00、11.20、11.50) を指します。この製品名の変更に対応するため、これら2つのフィールドグループの名前と、フィールドの名前が変更されました。

ALMバンドルの詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

一元化された統合ランディングページ

PPM Centerバージョン9.20では、統合ソリューションの統一ランディングページが導入されました。これにアクセスするには、メニューバーから **[開く]** > **[管理]** > **[統合]** をクリックします。

図 1-2. 統合構成ランディングページ

hp Project and Portfolio Management Center

ユーザー: Admin User | サインアウト

ダッシュボード ▾ 開く ▾ 検索 ▾ 作成 ▾ マイリンク ▾ 履歴 ▾ ☆

ダッシュボード - Key Status Information > 統合構成

アプリケーション変更の管理 アプリケーション変更の管理

プロジェクト品質の表示 PPM Center と Quality Center/HP ALM を統合すると、PPM Center の使用中に、Quality Center/HP ALM で要件および不具合を作成できます。これにより、両方のアプリケーションのユーザが、不具合、変更リクエスト、リリースリクエストの処理に参加できます。
PPM Center-ALM 統合ツールのダウンロード。

アジャイル統合ソリューション 統合構成

リクエストタイプ	ステータス	サーバ URL	バージョン	ドメイン	プロジェクト	エンティティタイプ	アクション
ALM - Defect Template wit...		http://156.152.160.69:8080/qcbin/	ALM 11.5	DEFAULT	ALM_Demo_	Defect	
ALM - RFC Demo		http://w2k3r2sp2:8080/qcbin/	QC 10	DEFAULT	Credit_App	Requirement	
ALM - Request for Change ...		http://156.152.160.69:8080/qcbin/	ALM 11.5	DEFAULT	ALM_Demo_	Requirement	
MAC - Defect Template		http://156.152.160.69:8080/qcbin/	ALM 11.5	DEFAULT	ALM_Demo_	Defect	

サーバ構成の詳細:

ALM - Defect Template with Quality Center Integration (OOTB) ▾ + 統合構成の追加

統合ランディングページには次の機能があります。

- すべての統合構成の一括表示
- ドキュメントやツールを含む1個所での構成
- 簡単で、統一された構成プロセス
- 構成手順の詳細なガイダンス
- 異なる統合ソリューションを切り替えるためのナビゲーションペイン

PPM CenterのQuality Center/HP ALMとの統合 (ALMを使用)

ソリューションの拡張

ソリューションの主な拡張を次に示します。

- QC/ALM 情報フィールドグループに **[QC/ALM 要件タイプ]** フィールドを追加することで、要件の同期に使用する要件タイプを指定することができます。
- 次の2つのフィールドにより、同期がオプションかどうかを制御できます。

- **QC/ALM要件と同期** (「はい」または「いいえ」のラジオボタン)
- **QC/ALM制御フィールド** (ドロップダウンリスト)
- 簡単で、統一された構成
 - あらかじめ構成されたデフォルト値マッピングリスト
 - クリック 1 つで統合構成の有効と無効を切り替えられるわかりやすいステータスアイコン
 - 構成手順の詳細なガイダンス
- PPM CenterのリクエストタイプとQC/ALMの不具合を統合するため、[リクエストタイプのためのQC/ALM統合の構成] ページの [統合オプション] セクションで双方向統合のための3つ目のオプションが使用できます。**PPM Center リクエストを作成すると、対応するQC/ALMエンティティが自動作成され、その逆も行われます。**
- 新しい統合構成を容易に追加して、1つのALMリクエストタイプを異なるQC/ALMドメインまたはプロジェクトの複数のエンティティにマップできます。

PPM CenterのQuality Centerとの統合 (ALMを使用) のアップグレード

PPM Centerバージョン9.14では、PPM CenterのQuality Centerバージョン9.2または10との統合を、HP Application Lifecycle Management (ALM) バージョン11.00との統合にアップグレードすることができます。

PPM Centerバージョン9.20では、PPM CenterのQuality Centerバージョン10との統合を、HP Application Lifecycle Management (ALM) バージョン11.00以降との統合にアップグレードすることができます。これは、QC 10とPPM Center 9.1x/8.0x/7.xの任意の組み合わせから、PPM Center 9.20とALM 11.xの組み合わせへのアップグレードに適用されます。

なお、PPM Centerバージョン9.20では、Quality Center不具合情報フィールドグループとQuality Center情報フィールドグループの名前が、QC/ALM不具合情報フィールドグループとQC/ALM情報フィールドグループに変更されましたが、統合構成をアップグレードしても、既存のリクエストのQuality Center不具合情報セクションやQuality Center情報セクションはアップグレードされません。

統合構成のアップグレード手順については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

プロジェクト品質の表示 (PPM CenterのHP ALMとの統合)

PPM Centerバージョン9.20では、PPM CenterとHP ALMプロジェクト品質の表示との間の新しい統合ソリューションが導入されました。

この統合ソリューションは、プロジェクトマネージャに次の機能を提供することを目的としています。

- PPM CenterプロジェクトとHP ALMリリースの両方の管理
- PPM Centerプロジェクトからの品質KPIの表示
- PPM CenterプロジェクトからのALMスコアカードの表示

PPM Center管理者が統合を有効にするために必要な構成作業を実行した後で、プロジェクトマネージャは新規プロジェクトを作成し、品質関連のKPIやその他の情報を、[プロジェクトの概要] ページにデフォルトで追加されている次のポートレットを通じて表示できます。

新規ポートレット	説明
要件トレンド	過去10日間の要件ステータスのトレンドを表示します。要件ステータスには、要件の範囲が含まれます。
オープン不具合トレンド	過去10日間のオープン不具合のトレンドを表示します。オープン不具合には、オープン不具合数と全不具合数が含まれます。
優先度不具合トレンド	過去10日間の重要度が高い不具合のトレンドを表示します。重要度が高い不具合には、重要度がS1とS2の不具合が含まれます。
プロジェクト品質のスコアカード	ALMリリースのスコアカード情報を表示します。スコアカードポートレットは、ALMのプロジェクトの計画とトラック(PPT) モジュールのプロジェクトリクエストフィールドでALMスコアカード情報が設定されている場合のみ表示されます。

プロジェクト品質の表示統合ソリューションの詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

アジャイル統合ソリューション (PPM CenterのHP Agile Managerとの統合)

PPM CenterとHP Agile Managerとの統合を使用することで、プロジェクトマネージャ、プログラママネージャ、ポートフォリオマネージャ、およびその他のプロジェクト関係者は、次の機能を利用できます。

- アジャイル開発プロジェクトのリアルタイムのステータスと進捗を、HP Agile Managerにログオンしなくても、PPM Center内から表示可能
- タスクとアジャイル開発イニシアチブの統合表示

この統合により、プロジェクトマネージャは、プロジェクトのタスクをHP Agile Managerで管理される特定のリリースにマップすることができます。各PPM Centerタスクは、タスクのライフサイクルを通じて、HP Agile Managerの1つのリリースに関連付けられます。これは単方向の1対1のマッピング関係です。

マッピング関係が確立されると、プロジェクトマネージャは、HP Agile Managerから取得したリアルタイムのアジャイル開発関連チャートを表示できます。また、特定の作業パッケージ全体のリリース階層情報もPPM Centerから表示できます。

アジャイル統合ソリューションの詳細については、『HP Solution Integrations Guide』を参照してください。

HP Resource Management

オープンインタフェース

新しいユーザオープンインタフェースには、次の拡張が含まれます。

- リソース属性を保存するための新しいインタフェーステーブル `RSC_RESOURCES_INT` が導入されました。
- LDAPから情報をリソース属性に読み込むことができます。
- リソース属性をインタフェーステーブルからPPM Centerに読み込むことができます。

LDAPインポートでの一意でない名前を持つ組織単位からのユーザのインポートのサポート

PPM Center は、KRSC_ORG_UNITS_INT および KRSC_ORG_UNITS_MEMBERS_INT テーブルに新しい列を追加することにより、名前が一意でなく、別の階層レベルに存在する組織単位からのユーザのインポートをサポートするようになりました。インポートする組織単位の階層レベルを識別できるように、組織単位に関連するページやポップアップウィンドウに、**[階層]** 列またはオプションが追加されています。

[階層] 列またはオプションは次のページにも表示されます。

ページ	新しい列またはオプション
リソースの検索	[組織単位] フィールドのポップアップセレクトウィンドウの [階層] 列
組織単位の検索	<ul style="list-style-type: none">• [ソート基準] フィールドのドロップダウンリストオプションの [階層]• [検索結果] ページの [階層] 列
リソースプールの検索	[プライマリ組織単位] フィールドのポップアップセレクトウィンドウの [階層] 列
アサインの負荷データエクスポートの分析	
リソース可用性の検索	[組織単位] フィールドのポップアップセレクトウィンドウの [階層] 列

アップグレードの注意点

バージョン9.1x からバージョン9.20 へのアップグレードでは、次の点に注意してください。

- **アップグレード処理:** アップグレードプロセスによる既存の PPM Center インスタンスへの影響の詳細は、第 2 章「アップグレードの影響」(25 ページ) に記載されています。

この章では、PPM Center のデータモデルとエンティティの変更についても扱います。これは、PPM Center インスタンスに対して行われたカスタマイズにも影響する可能性があります。

- **システム管理:** PPM Centerのシステム管理者およびデータベース管理者向けの注意点は、第 3 章「システム要件および設定の更新」(51ページ)を参照してください。

変更または新規作成された文書のタイトル

表 1-1 は、PPM Centerバージョン9.20変更された文書のタイトル一覧です。

表 1-1. PPM Centerバージョン9.20で変更された文書のタイトル

PPM Centerバージョン9.10以前	PPM Centerバージョン9.20
N/A	『RESTful Web Services Guide』(9.20で追加)

関連情報

次に示すドキュメントには、本バージョンのインストール、設定、カスタマイズに関する詳細な情報が記載されています。

- 『Installation and Administration Guide』
- 『Document Management Guide and Reference』
- 『Upgrade Guide』
- 『System Requirements and Compatibility Matrix』
- 『標準インタフェースのカスタマイズ』
- 『スタートアップガイド』

その他の詳細な内容については、次の PPM Center 製品の文書を参照してください。

- HP Demand Management
- HP Deployment Management

- HP Financial Management
- HP Portfolio Management
- HP Project Management
- HP Program Management
- HP Resource Management
- HP Time Management
- Application Lifecycle Management
- HP Center Management for Quality Center
- HP ドキュメント管理
- Web サービス
- Operational Reporting

第2章 アップグレードの影響

アップグレードでの注意点

この章では、アップグレード処理の影響と、アップグレードの結果変更される PPM Center データモデルおよびエンティティについて説明します。また、PPM Center データベース、拡張機能、マイグレータとサードパーティ製品を組み合わせる場合のアップグレードパスと互換性もまとめます。

アップグレードパス

PPM Center バージョン 9.20 へのアップグレードには、PPM Center バージョン 9.10 (サービスパックがある場合とない場合のいずれかの構成) がインストールされていることが条件になります。これよりも古いバージョンがインストールされている場合、まずバージョン 9.10 にアップグレードしてから、PPM Center バージョン 9.20 にアップグレードしてください。バージョン 9.10 にアップグレードする方法については、バージョン 9.10 の『Upgrade Guide』を参照してください。

サードパーティ製品 (Oracle® データベースソフトウェアなど) のサポート対象バージョンで変更が行われている場合、アップグレードに影響する可能性があるのでご注意ください。ユーザ環境がアップグレード可能かどうかの確認と、アップグレードの計画作成については、『Installation and Administration Guide』および『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

Oracle データベースの互換性

次の表 (表 2-1 から表 2-5) では、PPM Center バージョン 9.10 および 9.20 の PPM サーバーでサポートされる Oracle データベースのバージョンをまとめます。各バージョンの詳細については、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

表の網掛け部分は、PPM Center バージョン 9.20 でサポートされていない環境を示します。それ以外の部分については、製品の組み合わせも PPM Center バージョン 9.20 のサポート対象となり、これ以前のサポート対象環境と一致することがあります。



現在インストールされているすべての Oracle バージョンに最新のパッチが適用済みであり、最新の Critical Patch Update のガイドラインに従っている必要があります。詳細情報は、<https://metalink.oracle.com> で入手できます。

Microsoft Windows

表 2-1. PPM Center バージョン 9.1x および 9.20 でサポートされる Oracle データベースおよび Microsoft Windows プラットフォーム

Oracle バージョン	Windows Server 2003	Windows Server 2003 SP1	Windows Server 2003 SP2	Windows Server 2003 R2	Windows Server 2003 R2 SP2	Windows Server 2008	Windows Server 2008 R2
	Standard Edition および Enterprise Edition (32 ビット および 64 ビット)	Standard Edition および Enterprise Edition (32 ビット)	Standard Edition および Enterprise Edition (32 ビット および 64 ビット)	Standard Edition および Enterprise Edition (32 ビット および 64 ビット)	Standard Edition および Enterprise Edition (32 ビット および 64 ビット)	Standard Edition、 Enterprise Edition、 Datacenter Edition (64 ビット)	Standard Edition および Enterprise Edition (64 ビット)
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	8.00.01 9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20

表 2-2. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる
Oracle データベースおよびOracle プラットフォーム

Oracle バージョン	Solaris 9 ^a	Solaris 10 ^b	Oracle Enterprise Linux 5	Oracle Enterprise Linux 6
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20	9.14 9.20	9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14 9.20	9.14 9.20	9.14 9.20	9.20

a. PPM Centerバージョン9.1xのサポート対象は、Solaris 9パッチ1から9です。

b. PPM Centerバージョン9.1xのサポート対象は、Solaris 10パッチ1から8です。

HP-UX

表 2-3. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる
Oracle データベースおよびHP-UX プラットフォーム

Oracle バージョン	HP-UX 11i v2 ^a	HP-UX 11i v3 ^a
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14 9.20	9.12~9.14 9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.14 9.20	9.14 9.20

a. バージョン9.1xではPA-RISCおよびItaniumの両方をサポートし、バージョン9.20ではItaniumだけをサポートします。

表 2-4. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる
Oracle データベースおよびIBM AIX プラットフォーム

Oracle バージョン	AIX 5L バージョン5.3	AIX バージョン6.1	AIX バージョン7.1
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14 9.20	9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.14 9.20	9.20

Red Hat Linux

表 2-5. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる
Oracle データベースおよびRed Hat Linux プラットフォーム

Oracle バージョン	Red Hat Enterprise Linux AS 4.0 ^{a c}	Red Hat Enterprise Linux AS 5.0 ^{b c}	Red Hat Enterprise Linux AS 6.0 ^c
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	サポート対象外
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14 9.20	9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.14 9.20	9.20

- a. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のAS 4.0リリースおよびアップデート1から6をサポートします。
b. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のAS 5.0リリースおよびアップデート1から4をサポートします。
c. 32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

表 2-6. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる
Oracle データベースおよびSUSE Linux プラットフォーム

Oracle バージョン	SUSE Linux Enterprise 9 ^{a c}	SUSE Linux Enterprise 10 ^{b c}	SUSE Linux Enterprise 11 ^c
11.1.0.7 11.1.0.7 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.1 11.2.0.1 RAC	9.10~9.14	9.10~9.14	9.10~9.14
11.2.0.2 11.2.0.2 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14 9.20	9.20
11.2.0.3 11.2.0.3 RAC	9.12~9.14	9.12~9.14 9.20	9.20

- a. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のEnterprise 9リリースおよびSP1からSP4をサポートします。
- b. PPM Centerバージョン9.1xでは、最初のEnterprise 10リリースおよびSP1からSP3をサポートします。
- c. 32ビットおよび64ビットプラットフォームの両方がサポート対象です。

拡張機能とマイグレータの互換性

HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite

表 2-7は、Oracle E-Business Suiteの各バージョンをサポートするHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびPPM Centerのバージョンを示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.20でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

表 2-7. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされる Oracle E-Business SuiteおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン(1/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.10
11-11.5.6	9.10, 9.11
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	9.10~9.14 9.20
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	9.10~9.14 9.20
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	9.10~9.14 9.20

表 2-7. PPM Centerバージョン9.1xおよび9.20でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン(2/2ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.10
11.5.10 ^{a, b} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	9.10~9.14 9.20
11.5.10.2 (CU2) ^b Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	9.10~9.14 9.20
12.0.0-12.1.2 Applications Technology: R12.ATG_PF.A-R12.ATG_PF.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.A-R12.AD.B.DELTA.1	9.10~9.14 9.20
12.1.3 Applications Technology: R12.ATG_PF.A-R12.ATG_PF.B.DELTA.3 Applications DBA: R12.A-R12.AD.B.DELTA.3	9.12~9.14 9.20
a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。 b. 11.5.8-11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します。	

HP Object Migrator および Mercury GL Migrator

表 2-8は、Oracle E-Business SuiteをサポートするMigratorおよびHP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteをバージョンごとに示しています。

網掛け部分は、PPM Centerバージョン9.20でサポートされないバージョンを示します。それ以外の部分は、このPPM Centerバージョンでサポート対象となる組み合わせを示します。

表 2-8. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.1xおよび9.20でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Migratorのバージョン(1/2ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	Kintana Object* Migratorバージョン5.1	Mercury Object Migratorバージョン6.0	HP Object Migratorバージョン7.5	Kintana GL* Migratorバージョン2.0	Mercury GL Migratorバージョン6.0
11-11.5.1	9.1x	9.1x	9.1x	9.1x	9.1x
11.5.2-11.5.6	9.1x	9.1x	9.1x	サポート対象外	9.1x
11.5.7 Application Object Library: FND.E Applications DBA: AD.F 共通モジュール: AK.D Financials Suite: Family Pack A	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	サポート対象外	9.10~9.14 9.20
11.5.8 Application Object Library: FND.F Applications DBA: AD.G 共通モジュール: AK.E Financials Suite: Family Pack C	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	サポート対象外	9.10~9.14 9.20
11.5.9 ^a Application Object Library: FND.G Applications DBA: AD.H 共通モジュール: AK.F Financials Suite: Family Pack D	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	サポート対象外	9.10~9.14 9.20

表 2-8. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.1xおよび9.20でサポートされるOracle E-Business SuiteおよびHP Migratorのバージョン(2/2 ページ)

Oracle E-Business Suiteのバージョン	Kintana Object Migratorバージョン5.1	Mercury Object Migratorバージョン6.0	HP Object Migratorバージョン7.5	Kintana GL* Migratorバージョン2.0	Mercury GL Migratorバージョン6.0
11.5.10とFND.H Mini Packの組み合わせ ^{a、b、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	サポート対象外	9.10~9.14 9.20
11.5.10.2 (CU2) ^{c、d} Application Object Library: FND.H Applications DBA: AD.I.6 共通モジュール: AK.G Financials Suite: Family Pack F	サポート対象外	9.10~9.14 9.20	9.10~9.14 9.20	サポート対象外	9.10~9.14 9.20
12.0.0-12.1.2 Applications Technology: R12.ATG_PF.A- R12.ATG_PF.B.DELTA.2 Applications DBA: R12.A-R12.AD.B.1	サポート対象外	サポート対象外	9.10~9.14 ^e	サポート対象外	サポート対象外
12.1.3 Applications Technology: R12.ATG_PF.A- R12.ATG_PF.B.DELTA.3 Applications DBA: R12.A-R12.AD.B.3	サポート対象外	サポート対象外	9.12~9.14 ^e 9.20 ^e	サポート対象外	サポート対象外

- a. 11.5.8とFND.G Mini Packの組み合わせは、11.5.9の機能に相当します。
- b. 11.5.8-11.5.9とFND.H Mini Packの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します(HP Object Migrator)。11.5.8-11.5.9とFinancials Family Pack Fの組み合わせは、11.5.10の機能に相当します(HP GL Migrator)。
- c. 詳細については、HP Object Migrator Oracle Applicationsバージョン11.5.10.2互換性パッチ(#174141)のReadmeを参照してください。
- d. Oracle Database 10gでOracle Applications E-Business Suiteバージョン11.5.10をサポートするためには、パッチ154770のインストールが必要です。詳細については、HP Object Migratorバージョン6.0 Database 10g互換性パッチ(#154770)のReadmeを参照してください。
- e. R12.1.2との互換性パッチをObject Migrator 7.5に適用してください。

HP Deployment Management Extension for Oracle Technology

本バージョンの PPM Center では、HP Deployment Management Extension for Oracle Technology のサポートに変更はありません。ただし、アップグレードの完了後に Extension の新バージョンをインストールしてください。

HP Deployment Management Extension for SAP Solutions

本バージョンの PPM Center の HP Deployment Management Extension for SAP Solutions では、SAP モジュール、アーカイブ、プラットフォームのサポートに変更はありません。ただし、アップグレードの完了後に Extension の新バージョンをインストールしてください。

カスタマイズソリューション

アップグレードを行うと、カスタマイズソリューションの動作に影響が発生する可能性があります。カスタマイズの内容をよく確認してから、アップグレードを行ってください。本バージョンで新しく提供される機能のために、カスタマイズ環境が使えなくなることがあります。

データモデルの変更

バージョン9.10から本バージョンへのアップグレードに伴うデータモデルの主な変更点をまとめます。

テーブル

表 2-9は、PPM Centerバージョン9.10からのアップグレードで変更されたテーブルを詳しく示しています。9.20では、一部テーブルの削除、新規追加、変更、廃止、ビューによる置換が行われています。

表 2-9. テーブルの変更(1/8ページ)

テーブル	変更内容
FM_FORECAST_ACTUAL_PERIOD_SUM	9.10で変更
I18N_KNTA_LOOKUPS	9.10で削除
ITG_BUNDLED_ITEMS	8.00.01で廃止
ITG_COMPRESSED_ELEMENTS	8.00で廃止
ITG_SETTINGS_ATTRIBUTES	9.10で変更
ITG_SETTINGS_CONT_ATTRS	9.10で変更
JMS_MESSAGES	9.10で削除
JMS_ROLES	9.10で削除
JMS_SUBSCRIPTIONS	9.10で削除
JMS_TRANSACTIONS	9.10で削除
JMS_USERS	9.10で削除
KCRT_FG_PFM_ASSET	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_ASSET_INT	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_PROJECT	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_PROPOSAL	9.10で変更
KCRT_FG_PFM_PROPOSAL_INT	9.10で変更

表 2-9. テーブルの変更(2/8ページ)

テーブル	変更内容
KCRT_FG_PROG_REFERENCE	9.10で変更
KCRT_FG_PROG_REFERENCE_INT	9.10で変更
KCRT_FG_PROG_RISK	9.10で追加
KCRT_FG_PROG_RISK_INT	9.10で追加
KCRT_FG_SERVICE	9.10で追加
KCRT_FG_SERVICE_INT	9.10で追加
KCRT_FG_UCMDB_INT	9.10で変更
KCRT_REQUEST_DETAILS	9.10で変更
KCRT_REQUEST_HEADER_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_REQUEST_SUB_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_REQUEST_TYPE_SECURITY	9.10で変更
KCRT_REQUEST_TYPES_LOC	9.10で変更
KCRT_RT_REQUEST_RESOURCES	9.10で変更
KCRT_STATUSES_LOC	9.10で変更
KCRT_TABLE_ENTRIES	9.10で変更
KCST_BENEFIT_ACCESS	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINE_CELLS	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINES	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_LINKED_ENTITIES	8.00で廃止
KCST_BENEFIT_PERIOD_SUM_75	8.00で削除
KCST_BENEFIT_TXN_HIST	8.00で廃止
KCST_BENEFITS	8.00で廃止
KCST_BUDGET_ACCESS	8.00で廃止
KCST_BUDGET_LINE_CELLS	8.00で廃止

表 2-9. テーブルの変更(3/8ページ)

テーブル	変更内容
KCST_BUDGET_LINES	8.00で廃止
KCST_BUDGET_LINKED_ENTITIES	8.00で廃止
KCST_BUDGET_PERIOD_SUM_75	8.00で削除
KCST_BUDGET_TXN_HIST	8.00で廃止
KCST_BUDGETS	8.00で廃止
KCST_CURRENCY_CELLS_75	8.00で削除
KCST_CURRENCY_LINES_75	8.00で削除
KDEM_DEMAND_FIELDS	9.10で変更
KDEM_DEMANDS	9.10で変更
KDLV_PACKAGES_INT	9.10で変更
KDRV_CALENDAR_EXCEPTIONS	9.10で変更
KDRV_CALENDAR_SETUPS	9.10で変更
KDRV_ROLLUP_METHODS	9.10で変更
KDRV_ROLLUP_SETUPS	9.10で変更
KDRV_STATES_NLS	9.10で変更
KDRV_WORKING_DAYS	9.10で変更
KDSH_DIST_IMPACTED_USERS	9.10で廃止
KDSH_DIST_ORG_UNITS	9.10で廃止
KDSH_DIST_SECURITY_GRP	9.10で廃止
KDSH_DISTRIBUTION_ERRORS	9.10で廃止
KDSH_DISTRIBUTION_USERS	9.10で廃止
KDSH_DYNAMIC_FILTERS	9.10で廃止
KDSH_MODULE_DIST_PAGES	9.10で廃止
KDSH_MODULE_DIST_PORTLETS	9.10で廃止

表 2-9. テーブルの変更(4/8ページ)

テーブル	変更内容
KDSH_MODULE_DISTRIBUTIONS	9.10で廃止
KDSH_MODULES	9.10で廃止
KDSH_PUBLISHED_MODULE_USERS	9.10で廃止
KENV_ENVIRONMENTS	9.10で変更
KENV_HOST_CLASSES_NLS	9.10で変更
KINS_ACTIONS	9.10で追加
KINS_TABLESPACES	9.10で追加
KNTA_APP_SERVER_PROPERTIES	9.10で変更
KNTA_COMMANDS	9.10で変更
KNTA_DOCUMENT_HISTORY_CONTENTS	9.13で追加
KNTA_DOCUMENT_TIP_CONTENTS	9.13で追加
KNTA_DOCUMENT_VERSIONS	9.13で追加
KNTA_ENTITIES_NLS	9.10で変更
KNTA_EXTERNAL_SYNCH	9.10で変更
KNTA_FIELD_SECURITY	9.10で変更
KNTA_PARAM_SET_FIELDS_NLS	9.10で変更
KNTA_REF_RELATIONSHIPS_NLS	9.10で変更
KNTA_REFERENCES	9.10で変更
KNTA_REPORT_SUBMISSIONS	9.10で変更
KNTA_RESOLVED_SEC_TOKENS	9.10で変更
KNTA_SERVER_PARAM_DEF_NLS	9.10で変更
KNTA_UCMDB_CI_ENTRIES	9.10で追加
KNTA_UCMDB_CI_SETS	9.10で追加
KNTA_USERS	9.10で変更

表 2-9. テーブルの変更(5/8ページ)

テーブル	変更内容
KNTA_VALIDATIONS_NLS	9.10で変更
KPFM_CONFIGURATIONS	9.10で変更
KPFM_SCENARIOS	9.10で変更
KPMO_PROGRAM_BUSINESS_OBJ	9.10で変更
KRSC_ORG_UNITS_NLS	9.10で変更
KRSC_STAFF_PROF_PERIOD_SUM	9.10で変更
KTMG_PAGE_COLUMNS	9.10で変更
KTMG_POLICIES	9.10で変更
KWFL_PENDING_EXEC_CALLBACKS	9.10で変更
KWFL_RESOLVED_SEC_TOKENS	9.10で変更
KWFL_WORKFLOW_STEPS_NLS	9.10で変更
KWFL_WORKFLOWS_NLS	9.10で変更
PFM_PORTFOLIO_CONTENTS	9.10で追加
PFM_PORTFOLIO_MANAGERS	9.10で追加
PFM_PORTFOLIOS	9.10で追加
PGM_PROGRAM_CONTENT	9.10で追加
PGM_PROGRAMS	9.10で追加
PLSQL_BLOCK_TES	9.10で削除
PM_EXCEPTION_RULE_RESULTS	9.10で変更
PM_MSP_LINK_REQUESTS	9.10で追加
PM_PROGRAM_PROJECTS	9.10で削除
PM_PROJECTS_CONTAINERS	9.10で削除
PPM_EMAIL_CONTEXT_INFO	9.10で追加
PPM_EMAIL_PROCESSED_MSGS	9.10で追加

表 2-9. テーブルの変更(6/8ページ)

テーブル	変更内容
PPM_FISCAL_PERIODS_NLS	9.10で追加
PPM_INT_AGILE_TASK_MAPPING	9.20で追加
PPM_INT_CONFIGURATIONS	9.10で追加
PPM_INT_EVENTS	9.10で追加
PPM_INT_QC_KPI	9.20で追加
PPM_INT_QC_CONTROL	9.10で追加
PPM_INT_QC_ENTITY_MAP	9.10で追加
PPM_INT_SOLUTIONS_NLS	9.10で追加
PPM_SERVICE_JOB_STATUS	9.10で変更
RC_TEMP_TABLE	9.10で削除
RPT_CALENDAR_DAYS	9.10で追加
RPT_CM_FACT_CNTL	9.10で追加
RPT_DIM_PPM_FISCAL_PERIODS	9.10で追加
RPT_DIM_REQUESTS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_POSITIONS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCEPOOLMGRS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCEPOOLS	9.10で追加
RPT_DIM_RM_RESOURCES	9.10で追加
RPT_DIM_RM_ROLES	9.10で追加
RPT_DIM_RM_STAFF_PROFILES	9.10で追加
RPT_DIM_TM_TIME_SHEET_LINES	9.10で追加
RPT_DIM_TM_TIME_SHEETS	9.10で追加
RPT_ETL_JOB	9.10で追加
RPT_EVENT_DEF	9.10で追加

表 2-9. テーブルの変更(7/8ページ)

テーブル	変更内容
RPT_EVENT_LOG	9.10で追加
RPT_EVENT_LOG_DETAIL	9.10で追加
RPT_FCT_FM_APPROVED_BUDGETS	9.10で追加
RPT_FCT_FM_FCST_ACTUAL_CELL	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RES_DISTRIBUTION	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_CAPACITY	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_DEMAND	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_DEMAND_STG	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESOURCE_EFFORT	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RESRCE_CAPACITY_STG	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RSC_CAPACITY_AGGR	9.10で追加
RPT_FCT_RM_RSC_DEMAND_AGGR	9.10で追加
RPT_FCT_TM_ACTUAL_EFFORT	9.10で追加
RPT_FCT_TM_COMPLIANCE	9.10で追加
RPT_FCT_TM_COST	9.10で追加
RPT_KNTA_USERS_DELETES	9.10で追加
RPT_PARAMS	9.10で追加
RPT_RECREATE_INDEX	9.10で追加
RPT_RERUN_STATUS	9.10で追加
RPT_RM_FACT_CNTL	9.10で追加
RPT_RM_RSC_RP_ENTRIES	9.10で追加
RPT_RSC_RPDE_DELETES	9.10で追加
RPT_DEPLOYMENT	9.12 Content Pack 1で追加
RPT_DIM_PM_TASKS	9.12 Content Pack 1で追加

表 2-9. テーブルの変更(8/8ページ)

テーブル	変更内容
RPT_DIM_REQ_DTL_CUSTOM_PARAMS	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_DIM_REQ_HDR_CUSTOM_PARAMS	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_FCT_PM_AGGR_PROJ_EFFORT	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_FCT_PM_AGGR_TASK_EFFORT	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_FCT_PM_TASK_ASSIGNMENTS	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_FCT_PM_TASK_COST	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_FCT_PM_TASK_UNASSGN_EFFORT	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_PM_PROJECT_ENTRIES	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_PM_PROJECT MANAGERS	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_PM_TASK_ENTRIES	9.12 Content Pack 1 で追加
RPT_UPGRADE_PARAMS	9.12 Content Pack 1 で追加
RSC_RESOURCES	9.10 で変更
RSC_RESOURCES_INT	9.20 で追加
SM_RFC	9.10 で追加
TEMP_TBL1	8.00.01 で削除
TEMP_UTIL_SOURCE	8.00.01 で削除
TM_TIME_SHEETS	9.10 で変更
TM_WORK_UNITS	9.10 で変更
VALIDATION_ERRORS	9.10 で削除
WP_CALENDAR_CONSTRAINTS	9.10 で変更
WP_TASK_ACTUALS	9.10 で変更
WP_TASK_COSTS	9.10 で変更
WP_TASK_INFO	9.10 で変更
WP_USER_DATA	9.10 で変更

ビュー

表 2-10は、PPM Centerバージョン9.10より後に変更または追加されたビューの一覧です。

表 2-10. ビューの変更(1/2ページ)

ビュー	変更内容
RPT_DIM_BUSINESS_OBJ_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FCST_ACTUAL_LINE_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FCST_ACTUAL_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_FIN_SUMMARY_MV	9.10で追加
RPT_DIM_FM_KNTA_LOOKUPS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_ORG_UNITS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROGRAMS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROGRAM_CONTENT_MV	9.10で追加
RPT_DIM_PROJECTS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_REGIONS_MV	9.10で追加
RPT_DIM_TM_ACTIVITIES_MV	9.10で追加
RPT_DIM_TM_CHARGE_CODES_MV	9.10で追加
RPT_DIM_TM_PERIODS_MV	9.10で追加
RPT_FCT_FM_FA_APPROVED_MV	9.10で追加
RPT_PPM_AGGR_WRK_DAYS_MV	9.10で追加
RPT_PPM_AGGR_WRK_DAYS_MV	9.10で追加
KRSC_ORG_UNITS_V	9.10で変更
RPT_DIM_PM_DTL_CSTPARMS_IRS_MV	9.12、Content Pack 1で追加
RPT_DIM_PM_HDR_CSTPARMS_IRS_MV	9.12、Content Pack 1で追加
RPT_DIM_PM_PROJ_ISSUE_MV	9.12、Content Pack 1で追加
RPT_DIM_PM_PROJ_RISK_MV	9.12、Content Pack 1で追加

表 2-10. ビューの変更 (2/2 ページ)

ビュー	変更内容
RPT_DIM_PM_PROJ_SCPCHG_MV	9.12、Content Pack 1 で追加
RPT_DIM_PM_PROJ_SETTINGS_MV	9.12、Content Pack 1 で追加
RPT_DIM_PM_WORKPLAN_MV	9.12、Content Pack 1 で追加
KRSC_ORG_UNITS_INT	9.20 で変更
KRSC_ORG_UNIT_MEMBERS_INT	9.20 で変更

エンティティの変更

ここでは、HP が提供するエンティティについて、バージョン 9.10 から本バージョンへのアップグレードに伴う主な変更について説明します。エンティティには、アクセス許可、ライセンス、ポートレット、レポートタイプ、リクエストタイプ、特殊コマンド、トークン、検証、ワークフローが含まれます。いくつかの変更は、記載されているようにサービスパックまたはマイナーリリースで導入されています。

アクセス許可

表 2-11. アクセス許可の変更 (1/2 ページ)

エンティティ名	変更内容
Portfolio Management の設定	9.10 で変更
MSPS リソースマッピングの作成	9.10 で追加
Demand Mgmt: リクエストのインポート	9.12 で追加
全財務サマリの実績の編集	9.10 で追加
財務サマリの実績の編集	9.10 で追加
すべてのポートフォリオの編集	9.10 で追加
Edit Costs on All Financial Summaries (全財務サマリのコストの編集)	9.10 で [全財務サマリの実績の編集] に名前を変更

表 2-11. アクセス許可の変更(2/2 ページ)

エンティティ名	変更内容
Edit Costs on Financial Summary (財務サマリのコストの編集)	9.10 で [財務サマリの実績の編集] に名前を変更
MSPS リソースマッピングの編集	9.10 で追加
ポートフォリオの編集	9.10 で追加
ポートフォリオマネージャ	9.10 で [すべてのポートフォリオの表示] に名前を変更し、内容を変更
未指定リソースの保証	9.10 で追加
Resource Mgmt: 自分が直属マネージャとして管理しているリソースのみ表示	9.14 で追加
Resource Mgmt: 自分のリソースプールで管理しているリソースのみ表示	9.14 で追加
システム管理: サーバツール:SQL Runner の実行	9.12 で変更
システム管理: サーバツール: ファイルブラウザの実行	9.12 で追加
すべてのポートフォリオの表示	9.10 で追加

ライセンス

表 2-12. ライセンスの変更

エンティティ名	変更内容
アプリケーションポートフォリオアナリスト	9.12 で追加
アプリケーションポートフォリオユーザ	9.12 で追加

ポートレット

表 2-13. ポートレットの変更

エンティティ名	変更内容
財務比較	8.00.01 で追加
財務サマリと財務データの比較	8.00.01 で追加
プログラムコンテンツリスト	9.10 で追加
プログラムコストサマリ	9.10 で変更
プログラムリスト	9.10 で変更
Program Project List (プログラムプロジェクトリスト)(後継ポートレットは、プログラムコンテンツリスト)	9.10 で置換
オープン不具合トレンド	9.20 で追加
優先度不具合トレンド	9.20 で追加
要件トレンド	9.20 で追加
プロジェクト品質のスコアカード	9.20 で追加

レポートタイプ

表 2-14. レポートタイプの変更

エンティティ名	変更内容
空のタイムシート明細の削除	9.20 で追加
(REFERENCE) エクスポートリクエストレポート	9.12 で追加

リクエストヘッダタイプフィールドグループ

表 2-15. リクエストヘッダタイプフィールドグループの変更

エンティティ名	変更内容
サービス	9.10で追加
CMQCアプリケーションプロジェクト	9.20で説明を変更
CMQC QC/ALM管理 (CMQC QC管理から名前を変更)	9.20で変更
CMQC QC/ALMインスタンス (CMQC QCインスタンスから名前を変更)	9.20で変更
CMQCテストプロジェクト	9.20で説明を変更
QC/ALM不具合情報 (Quality Center不具合情報から名前を変更)	9.20で変更
QC/ALM情報 (Quality Center情報から名前を変更)	9.20で変更
QC/ALMリリース情報	9.20で追加
Universal CMDBインパクト分析	9.12で変更

リクエストタイプ

表 2-16. リクエストタイプの変更

エンティティ名	変更内容
PFM資産	9.10で変更
PFMプロジェクト	9.10で変更
PFM提案	9.10で変更

特殊コマンド

表 2-17. 特殊コマンドの変更

エンティティ名	変更内容
ksc_clear_staffingprofile_forecast_assignment	9.10で追加
ksc_copy_request	9.12で変更(2つのパラメータを追加)
ksc_export_request_as_xml	9.12で追加
ksc_download_ucmdb_impactreport	9.12で追加

検証

表 2-18. 検証の変更(1/2ページ)

エンティティ名	変更内容
CST - 予算エンティティ	9.10で変更
CST - プログラム名	9.10で変更
財務ベネフィットの回避カテゴリリスト	9.10で編集可能
財務ベネフィットの収入カテゴリリスト	9.10で編集可能
PM - プログラム	9.10で変更
PM - プログラム(制限付き)	9.10で変更
PMO - すべてのコストに対応するプログラム	9.10で変更
PMO - プログラムプロジェクト	9.10で変更
サービスリスト	9.10で追加
サービスリストデータ	9.10で追加
サービスリストuCMDB	9.10で追加
RSC - 組織単位ID	9.20で変更

表 2-18. 検証の変更(2/2 ページ)

エンティティ名	変更内容
RSC - 組織単位ID - 有効	9.20 で変更
RSC - 組織単位の可能性のある上位 (「地域」の指定がある)	9.20 で変更
RSC - 新しい組織単位の組織単位の可能性のある上位 (「地域」の指定がある)	9.20 で変更
RSC - 組織単位のソート基準	9.20 で変更
RSC - プライマリ組織単位 - 有効	9.20 で変更
RSC - プライマリ組織単位 - 有効で、かつ特定の組織単位などの任意のリソースプールにアサインされていない	9.20 で変更
RSC - リソースプールに関連付けられたプライマリ組織単位	9.20 で変更
XML エクスポート可能リクエストテンプレート	9.12 で追加
リクエストタイプごとのXML エクスポート可能リクエストテンプレート	9.12 で追加
XML インポート可能リクエストテンプレート	9.12 で追加

ワークフロー

表 2-19. ワークフローの変更

エンティティ名	変更内容
プログラムリスク管理プロセス	9.10 で追加

第 3 章 システム要件および設定の更新

システム変更の概要

この章では、PPM Centerバージョン9.20 (特に記載がない場合) でのシステムソフトウェアと設定の変更について説明します。



各プラットフォーム環境に関する内容は、『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

server.conf ファイルの変更

ここでは、バージョン9.20でのサーバ設定パラメータ (server.confファイル内) の変更について説明します。

追加と変更

表 3-1に示すサーバ設定パラメータが追加または変更されました (パラメータの使用目的の変更、有効な値の変更など)。これらのパラメータの詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(1/8ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
ALLOW_SAVE_REQUEST_DRAFT	9.12で説明を変更	trueに設定した場合、[新規リクエストの作成]ページの[ドラフトの保存]ボタンが有効になります。これによりHP Demand Managementユーザは、標準インタフェースで自動送信を行わなくても、リクエストを保存できます。
BYPASS_STARTUP_CHECKS	9.12で追加	trueに設定した場合、PPM Center 起動時のサーバチェックが行われなくなります。
CMQC_QC_VERSION	9.12で変更	CMQCソリューションのALM/Quality Centerバージョンを指定します。
CMQC_INIT_STRING	9.12で追加	CMQCソリューションのinitStringパラメータの値。例: INI:s40F+cwwevEkcJ9zWHwpE8ktxfl1pb5y8QoENFQLs8= 値はQuality Center/ALMサーバから取得できます。initStringの値が保存される場所は、プロパティファイル(ALM\jboss\server\default\deploy\20qcbn.war\WEB-INF\siteadmin.xml)またはQuality Center/ALMがインストールされているサーバ上のXML設定ファイル(ALM\conf\qcConfigFile.properties)です。
DMS_DB_ENABLE_FULLTEXT_SEARCH	9.13で追加	PPM Centerのドキュメント管理でデータベース全文検索機能を有効にするには、このパラメータをtrueに設定します。
DMS_FILENAME_DISPLAY_LENGTH	9.13で追加	[参照] セクションに表示されるPPM Centerエンティティの添付ファイル名の文字数を設定します。
DMS_MIGRATION_DELAY_BETWEEN_DOCUMENT	9.13で追加	2つのドキュメントの移行の間のスレッドの待ち時間(秒)を設定します。移行プロセスがPPMサーバに与える負荷を軽減するには、このパラメータの値を大きくします。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(2/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
DMS_MIGRATION_DOCUMENTS_BATCH_SIZE	9.13で追加	特定のPPMサービスノードで移行キューに入れられるドキュメントの数を設定します。DMS移行エンジンサービスがサービスノードに対して実行されると、移行キューにドキュメントが入れられます。
DMS_MIGRATION_THREAD_COUNT	9.13で追加	特定のPPMサービスノードに対してドキュメント移行を実行するスレッドの数を指定します。
ENABLE_CONNECTION_CORRELATION	9.12で追加	<p>接続関係ページは、HP Software Supportがトラブルシューティングに使用するためのもので、本番環境ではデフォルトで無効になっています。このページが有効になっている場合、これにアクセスするには、PPM Dashboardから [開く] > [管理] > [接続関係の表示] を選択します。</p> <p>[開く] > [管理] > [接続関係の表示] メニュー項目と接続関係ページを有効にするには、server.conf ファイルにENABLE_CONNECTION_CORRELATIONパラメータを追加し、その値をtrueに設定します。</p>
ENABLE_DEBUGGING_PER_USER	9.12で追加	このパラメータをserver.confファイルに追加してtrueに設定すると、特定のユーザに対してserverLog.txtファイルへのデバッグログが有効になります。
ENABLE_LW_SSO_UI	9.12で追加	server.confファイルに追加してtrueに設定すると、ライトウェイトシングルサインオン(LW-SSO) ユーザインタフェースが有効になります
ENABLE_LW_SSO_WEB_SERVICE	9.12で追加	<p>(PPM Center タスクと Service Manager RFC の統合専用)</p> <p>LW-SSO認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.confファイルに追加してtrueに設定すると、PPM Centerが常に現在のユーザを使用してService Manager Web サービスを呼び出すように設定します。</p>

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(3/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
ENABLE_RESTRICTIONS_ON_PROJ_SEARCH	9.12で追加	プロジェクト検索で返されるプロジェクト数の制限を有効にするには、このパラメータをtrueに設定します。 プロジェクト検索で返されるプロジェクト数の最大数を指定するには、MAX_RESULTS_ALLOWED_ON_PROJ_SEARCHパラメータを設定します。
ENABLE_SITE_MAP	9.12で追加	trueに設定した場合、各ページのヘッダの[サイトマップ]リンクを有効にします。
ENABLE_SKIP_NAVIGATION	9.12で追加	trueに設定した場合、各ページのヘッダの[ナビゲーションのスキップ]リンクを有効にします。
EXCEPTIONS_RETAIN_PERIOD	9.12で追加	非サービスPPM Center例外を保持する日数。
FONT_SIZE_OF_GRAPHIC_WORKFLOW	9.14で追加	ワークフローレイアウトイメージに表示する文字の大きさを制御するフォントサイズを指定します
HIGHLIGHT_NONWORKING_DAYS_IN_TIMESHEET	9.12で追加	時間が日次ベースで記録されるタイムシートに対してtrueに設定した場合、非就業日の列がカラーで強調表示されます。
IMPACT_ANALYSIS_REPORT_CATEGORY	9.12で追加	Universal CMDBのPDF形式のCIインパクト分析レポートをPPM Centerのリクエストに添付できるように設定してある場合、このパラメータを使用して、インパクト分析レポートのデフォルトのカテゴリ値(変更、操作など)を指定できます。
IMPACT_ANALYSIS_REPORT_LANGUAGE	9.12で追加	Universal CMDBのPDF形式のCIインパクト分析レポートをPPM Centerのリクエストに添付できるように設定してある場合、このパラメータを使用して、デフォルトの言語コードを設定できます。
IMPACT_ANALYSIS_REPORT_SEVERITY	9.12で追加	Universal CMDBのPDF形式のCIインパクト分析レポートをPPM Centerのリクエストに添付できるように設定してある場合、このパラメータを使用して、インパクト分析レポートのデフォルトの重要度の値を設定できます。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(4/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
LOCAL_IP	9.14で説明を更新	PPMサーバーが内部的に自身のサブレットの1つを呼び出すときに、PPMサーバーが使用するサブレットURLを構築するために使用されます。例としては、レポートを実行する場合が挙げられます。 通常はこのパラメータを指定する必要はありません。
LW_SSO_CLEAR_COOKIE	9.12で追加	LW-SSO 認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.confファイルに追加することにより、ユーザがPPM CenterからログアウトしたときにPPM CenterがLW-SSO トークンをクリアするように指定できます。
LW_SSO_DOMAIN	9.12で追加	LW-SSO 認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.confファイルに追加することにより、LW-SSO ドメインを指定できます。
LW_SSO_EXPIRATION_PERIOD	9.12で追加	ユーザのログオンを検証するためのトークンには有効期限の値があり、これによってアプリケーションのセッションの有効性が決まります。LW-SSO 認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.conf ファイルに追加することにより、LW-SSO トークンの有効期間を分単位で指定できます。 トークンの有効期限は、LW-SSOを使用する各HPアプリケーションに対して設定します。HPは、値を60(分)に設定することをお勧めします。
LW_SSO_INIT_STRING	9.12で追加	LW-SSO認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.conf ファイルに追加することにより、initStringパラメータの値を指定できます。
LW_SSO_TRUSTED_DOMAIN	9.12で追加	LW-SSO 認証が有効になっている場合、このパラメータをserver.confファイルに追加することにより、1つ以上のLW-SSO 信頼済みドメインを指定できます。複数のドメインの区切りにはセミコロン (;) を使用します。
MAX_RESULTS_ALLOWED_ON_PROJ_SEARCH	9.12で追加	プロジェクト検索で返されるプロジェクトの最大数を指定します。 この制限を設定するには、ENABLE_RESTRICTIONS_ON_PROJ_SEARCH パラメータも設定する必要があります。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(5/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
MAX_WEB_ATTACHMENT_SIZE_IN_MB	9.13 で追加	PPM Center Web インタフェースでアップロードされるファイルの最大添付ファイルサイズ (MB) を指定します。添付ファイルサイズの上限は2 GBです。
MOBILITY_ACCESS_HIDE_INITIAL_MESSAGE	9.14 で追加	モバイルアクセス電子メール通知の初期テキストを非表示にするか表示するかを制御します。
MULTICAST_WARNING_MINUTES	9.12 で追加、 9.20 で変更	PPM Center は、ノードからのマルチキャストトラフィックが指定された時間の間検出されなかった場合、サーバログに警告を書き込みます (ノードがJMS 接続ファクトリで到達可能で、PPM_SERVER_INSTANCE テーブルにノードが実行中であることが示されていても)。このパラメータは、ノードがダウンしていると PPM Center が判定するまでの経過時間を設定するために使用します。
NUMBER_OF_FUTURE_YEARS_TO_SHOW_ON_FINANCIAL_SUMMARY	9.12 で追加	「NUMBER_OF_PAST_YEARS_TO_SHOW_ON_FINANCIAL_SUMMARY」との組み合わせで、財務サマリの [予測と実績の編集] ページと [ベネフィットの編集] ページの予測および実績コストの詳細とベネフィットの詳細のテーブルに表示されるデータの時間範囲を指定します。
NUMBER_OF_PAST_YEARS_TO_SHOW_ON_FINANCIAL_SUMMARY	9.12 で追加	「NUMBER_OF_FUTURE_YEARS_TO_SHOW_ON_FINANCIAL_SUMMARY」との組み合わせで、財務サマリの [予測と実績の編集] ページと [ベネフィットの編集] ページの予測および実績コストの詳細とベネフィットの詳細のテーブルに表示されるデータの時間範囲を指定します。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(6/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
ONLINE_IMPACT_ANALYSIS_REPORT	9.12で追加	PPM Center は、ノードからのマルチキャストトラフィックが指定された時間の間検出されなかった場合、サーバログに警告を書き込みます (ノードがJMS 接続ファクトリで到達可能で、PPM_SERVER_INSTANCE テーブルにノードが実行中であることが示されていても)。このパラメータは、ノードがダウンしていると PPM Center が判定するまでの経過時間を設定するために使用します。 マルチキャストの監視を無効にするには、このパラメータを0以下の数値に設定します。
REPORTING_BASE_URL	9.12 CP1で追加	Operational Reporting がシステムにデプロイされている場合、これはBusinessObjects サーバのベース URL です。
SCHEME_BASED_REDIRECT_FILTER_ENABLED	9.20で追加	trueに設定した場合、SchemeBasedRedirectFilter フィルタを有効にします。 SchemeBasedRedirectFilter は、正しいリダイレクト URL を作成するために、BASE_URL の値をリダイレクト URL にプレフィックスとして追加して、すべてのリダイレクト URL がスキーム (http/https) および同じベース URL から始まるようにし、それを正しいターゲットに送信します。 このパラメータが server.conf に存在しない場合、システムはデフォルトで true 条件と見なします。 https またはリバースプロキシを使用しない場合は、このパラメータを false に設定することで、SchemeBasedRedirectFilter を無効にすることができます。
SHOW_PARAMETERS_AT_STARTUP	9.12で追加	trueに設定した場合、起動時に使用されるすべての PPM Center サーバ設定パラメータの表示 (およびログ) を有効にします。
SERVICE_RECORDS_RETAIN_COUNT	9.12で追加	保持する最近のサービス実行の数を設定します。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(7/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
TABLE_COMP_USE_LEGACY	9.12で追加	テーブルコンポーネントのオリジナルのレイアウトを使用するかどうかを設定します。trueに設定した場合、オリジナルのレイアウトが適用されます。
TM_ENABLE_GRID_RESIZE_CONTROL	9.12で追加	trueに設定した場合、ユーザはタイムシートの[時間の内訳] テーブルの縦のサイズを変更できます。
TM_ENABLE_REQ_ACTIVITY_CONTROLS	9.12で追加	タイムシートのポリシーで、特定のリクエストタイプのリクエストに対するタイムシート明細へのアクティビティの指定を必須とすることができます。リクエストタイプに基づいてこのアクティビティの制限を有効にするには、このパラメータをtrueに設定する必要があります(また、PPM Workbenchで[Time Managementを使用して、実績値をトラックします] オプションも選択する必要があります)。
TM_ENABLE_SHOW_WHATS_NEW	9.12で追加	ユーザがいずれかのタイムシートを初めて開いたときに、PPM Centerはタイムシートの保存に関する説明のメッセージを表示します。その後は、どのタイムシートに対してもこのメッセージは表示されなくなります。 このメッセージの表示を無効にするには、このパラメータの値をfalseに設定します。
UCMDB_WS_PASSWORD	9.12で追加	Webサービスによってログインする場合のUniversal CMDBユーザパスワード。
WORKBENCH_MAX_HEAP_SIZE	9.20で追加	PPM Workbenchの最大使用可能メモリ (MB) を指定します。
dashboard.Pivotdataset-Max-Cells	9.14で追加	ピボットテーブルポートレットのリスト表示モードでのセルの最大数(行数×列数)を設定します。
dashboard.Pivotdataset-Max-Distinct-Cells	9.14で追加	ピボットテーブルの固有集計(各列の固有の値の数の積)の最大数を設定します。
dashboard.Pivotdataset-Max-Distinct-In-Column	9.14で追加	ピボットテーブルの列内の固有の値の最大数を設定します。
dashboard.Pivotdataset-Max-Rows	9.14で追加	ピボットテーブルポートレットのリスト表示モードでの行の最大数を決定します。

表 3-1. サーバ設定パラメータの新規追加と変更(8/8 ページ)

パラメータ名	変更履歴	説明
DMS_FILENAME_SEARCH_MAX_RESULTS	9.20 で追加	作成日や「クローズ済み」ステータスなど、ほかの検索条件によるフィルタを適用する前の一致項目の最大数を指定します。非常に詳細な検索基準を指定してもフィルタを通過するファイル名一致項目の数が多すぎる場合は、この値を大きくする必要があります。
WORK_PLAN_RESOURCE_AVAILABILITY_DAYS_LIMIT	9.20 で追加	タスクのリソース可用性日数の上限 (リソースの非就業日数を含む) を指定します。 [スケジュールされた期間] フィールドに入力した値とリソースの非就業日数の合計がこの上限を超えると、スケジュール警告が表示されます。
MULTICAST_TTL	9.20 で追加	すべてのマルチキャストチャンネルの TTL 値を指定します。
HTTP_PROXY_URL	9.20 で追加	PPM Center がインターネットに接続するのに使用する HTTP プロキシサーバの URL。統合ソリューションまたは PPM Center のその他の機能で使用される可能性があります。
COST_ROWS_BATCH_SIZE	9.20 で追加	コストロールアップサービスが処理する行のバッチサイズ。
IMPACT_ANALYSIS_REPORT_NAME	9.20 で追加	UCMDB インパクト分析レポートの名前を指定します。
APP_SERVER_ALERT_TEXT	9.20 で追加	アプリケーションサーバのログオンページとヘッダに表示される警告テキスト。
MAX_QC_ALM_RELEASES_NUMBER	9.20 で追加	PPM Center の [プロジェクト詳細] ページに表示される ALM のリリースの最大数を指定します。
dashboard.Asynchronous-Loading-Enabled	9.20 で追加	値を true に設定すると、ダッシュボードページの非同期レンダリングが有効になります。

表 3-2. LDAP属性パラメータの新規追加と変更

パラメータ名	変更履歴	説明
RSC_RESOURCES_INT	9.20で追加	<p>インポートのターゲットテーブル。任意のLDAP属性にマップできます。</p> <p>常にVISIBLE_USER_DATAとUSER_DATAの両方をマップします。</p> <p>デフォルトのマッピングを無効にするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> マッピング行をコメントにするか削除します。 マッピング: <ul style="list-style-type: none"> ●USERNAME = sAMAccountName ●USER_DATA1 = mail ●VISIBLE_USER_DATA1 = mail LdapAttribute.conf ファイルに、FIRST_NAME フィールドと LAST_NAME フィールドに値を追加するプレースホルダパラメータを追加します。